A warm-toned photograph of a desk. On the left is a brass desk lamp with a dark blue shade. Next to it is a bamboo pen holder containing several pens. In the center, a large white text overlay reads '子どもの国語力を上げる 親ができる 3つのこと'. To the right of the text is a white ceramic vase with a dried flower, a small mirror, and a purple decorative object. In the foreground, there are two spiral-bound notebooks, one with a brown cover and one with a white cover, and a single orange pen.

子どもの国語力を上げる
親ができる

3つのこと

Presented by 親子読書コーチあんこ

目次



0. プロローグ

1. あなたの子どもの国語力は高い？低い？

2. 国語力がわかるチェックリスト

3. なぜ国語力が必要なの？

4. できること1 読書習慣をつけさせる

読書のメリット 7つ

5. できること2 論理的に話させる

今日からすぐできる！親子の会話のコツ

6. できること3 語彙を増やす

子どもの語彙が増える7つの習慣

7. 子どもの国語力が伸びない親の6つの習慣

あなたの子どもの国語力 は高い？低い？

国語力とは・・・

普段私たちは日本語で考えたり、コミュニケーションをとっています。国語力とは日本語で書かれた文章を論理的に読みとる力や漢字や言葉などの語彙力の総合力のことです。

読むだけでなく、物事の筋道を立てて説明したり、相手に納得させるような伝える力も含まれます。

私たちは言葉を使って考えています。

国語力がないと考える力も弱くなってしまいます。

子どもの普段よく使う言葉

子どもに何か感想を聞いたときに出てくる言葉はどんなものでしょうか。「やばい」「うざい」「好き」「嫌い」これらの感情語と呼ばれる言葉はただ、自分の感情をそのまま表したものです。

赤ちゃんが泣く、犬が吠えるのと同じレベル。

この感情語ばかりが出てくる子どもは国語力が低いと言わざるを得ません。

なぜそう思うのか、どこがそう思わせるのか、論理的に話せているかで国語力がわかります。

あなたの声かけでわかる

あなたは普段、子どもにどんな言葉をかけているのでしょうか。

子どもがわがままを言ったとき、「～しないの」とすぐにダメ出ししていないでしょうか。また、子どもが「なぜ？」と聞いてきたときにめんどくさがらずに一緒に考えたり、調べたりしているのでしょうか。

親が論理的な会話を引き出しているか、論理的に説明しているかで子どもの国語力が高いか低いかがわかります。

→
次のページでチェックしてみましょう

あなたの子どもの国語力がわかるチェックリスト

☐ 普段の生活で「やばい」「うざい」「しんどい」「すごい」「だるい」などの感情語が多い。

☐ 本や教科書の音読後に感想を聞くと「好き」「嫌い」「悪い」「いい」「すごい」などの言葉が多く、自分がなぜそう思ったのかの説明がない

☐ 「～したい・ほしい」の理由がうまく説明できない。納得感がない。

☐ 学校の問題で、問題文の読み違いで✕をもらうことが多い

☐ 問題を最後まで読まないで解き始める

☐ 普段の学習は理解しているのに学校のテストの成績が良くない

☐ 本を読む習慣がない（週に1冊以上）

☐ 今日の出来事などの話の説明をするとき、話の筋道がわからないことが多い

☐ 親が子どもが最後まで話し終わる前に口を挟むことが多い

☐ 親が子どもの質問に答えない（例「～ってどういう意味？」「辞書で調べてごらん」「なんで～したらダメなの」「ダメだから」）

☐ 親が子どもと話すときは難しい言葉をなるべく使わないようにしたり、難しい内容は話さないようにしている

☐ 家族でテレビの内容について話したり、ニュースの話題について話することがない

☐ 親が本を読む習慣がない

☐ 親子の会話が少ない

☐ 子どもがテレビや動画を見たり、ゲームをする時間が1日2時間以上

☒ が0～3個

いくつかチェックが付いていても、子どもの発言で理解ができたり、文章の読み間違いがなければ相応の国語力が付いているでしょう。

☒ が4～9個

国語の成績にも影響が出ているかもしれません。普段から親の声かけや習慣の改善で国語力はグンと伸びるでしょう。

☒ が10～15個

このままではいつまでも問題文の理解ができず、勉強しても進歩がないかもしれません。まず親の態度や習慣を見直すことが先決です。子どもは親の鏡です。

なぜ国語力が必要なの？

思考ベースの言語を確立する

これからは日本語を学ぶより、英語を勉強する方が役立つ、そう思う方もいるかもしれません。外国語を話す機会の多い子どもも頭の中で考える時はベースになる言語があります。その考えるときの言語をしっかりと深めていくことが思考力の深さにも比例します。深い思考は言語能力があってこそできるのです。

日本人だから日本語ができるという誤解

私たちは普段の会話を日本語で行い、問題なく意思疎通ができているかと思います。しかしそれだけでは文章を読んだり、伝えたいことを誤解がないように伝えたり、細かいニュアンスを伝えることはできません。大人になれば国語力のない人は仕事のできない人、コミュニケーションできない人、とみなされてしまいます。

論理的に考えるのに必須

国語力とは物事を頭の中で整理して考える力とも言えます。日本語で「だから～」 「なぜなら～」 「つまり～」 「でも～」 と出来事や論理を関係付けて、整理しています。この物事の間係を考えるとときに必要なのが論理力です。言葉の使い方がわかっていないとうまく頭の中で整理ができません。これから先の未来では情報が溢れ、自分でその情報が価値があるのか判断する力が必要です。論理的に考え、情報が整理できるとその判断ができます。

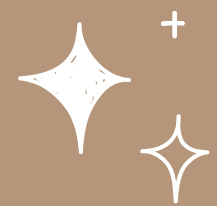


できること 1

読書習慣をつけさせる



子どもの学力を上げるには”読書がいい”というフレーズはもう何度も目にしているかもしれません。
読書のメリットに関する書籍もたくさん出版されています。その理由も様々な角度から色んな研究チームが述べています。
実際にどんなメリットがあるのか見ていきましょう。



読書のメリット



- 1 論理的な思考が養える
- 2 漢字が文章の中で覚えられる
- 3 語彙力がアップ
- 4 想像力を養う
- 5 共感力がつく
- 6 読解力がつく
- 7 マタイ効果

できること 2

論理的に話させる

普段の親子の会話でできることは限りなくあります。親が子どもの能力を引き出す役目を担っているともいえます。子どもの話の脈絡がなくて、わからないと感じたことはありませんか？その時がチャンスです。誰が言ったのか、どうしてそう思ったのか、結果どうなって、自分はどうしたいと思っているか。子どもに論理的に話すと大人はきちんと理解してくれる、と言うことを身をもって理解させましょう。



今日からすぐできる！ 親子の会話のコツ

他者意識を持たせる

他者意識とは”他人から見た視点を持つ”ことです。
今まで家族や親しい人に話すときは拙い説明でも分かってもらえたけれど、色々な人と交わる中でどうい言えば理解してもらえるかを考える、それが他者意識を持つということです。
それが論理的に話すことには必要不可欠なのです。

3つの接続詞を使う

論理的に話すツールとして、接続詞を上手に使うようにしましょう。

親子の普段の会話から取り入れることで身についてきます。

「なぜなら」「例えば」「つまり」を積極的に使いましょう。年齢に合わせてもう少し簡単な表現に変えてもOKです。

親も論理的に話す心がけを

言葉の習得は「マネ」から始まります。

小さな子どもが大人っぽいことを言って驚かせたり、外国語を流暢に話したり、いずれもお手本をマネているのです。

子どもが論理的に話せるようになって欲しいなら、普段から「なぜダメなのか」「なぜしなければいけないのか」を親が意識的に話すようにしてみましょう。

できること 3

語彙を増やす

その人の国語力のベースが作られるのはおよそ幼稚園から小学校の間だと言われています。

この間、できるだけたくさんの言葉の習得をしたいものです。

特に海外にいる子どもと日本にいる子どもでは、浴びる日本語の量は雲泥の差です。日本人学校や日本語の幼稚園に通っていても目や耳からの情報量にはかなりの差があります。

日本に暮らす子も海外で暮らす子も両者に言えることは、家族と話す言葉から言葉を習得している機会が多いということです。

何気ない会話の中や暮らしの中で楽しく語彙を増やす工夫をしましょう。

- もっと話したくなる
ような返し言葉

- 違う言葉に言い換える

- 「なんて意味？」に
答える

子どもの語彙が増える 7つの習慣

- おじいちゃん、おばあちゃんと話す機会を持つ

- 色んなジャンルの
話題について話す



- 過去に覚えた言葉を
「なんだっけ??」とふる

- 子どもの話を遮らない

子どもの国語力が伸びない

親の6つの習慣



1. うちの子は本が苦手と思い込む
2. 子どもの話を最後まで聞かない
3. 子どもを子ども扱いする
4. スマホを離さない
5. 本や新聞を読まない
6. 動画を見たりゲームをする際のルールがない